allcinema

モロッコ（1930）

MOROCCO

メディア 映画
ジャンル ドラマ
製作国 アメリカ
色彩 B&W
時間 92分
初公開日 1931/02
公開情報 ＰＡＲ

【解説】

日本初の字幕スーパー作品として知られる、エキゾチックな、スタンバーグの美意識に酔わされる名作だ。ストーリーは他愛なく、書けば却って映画のイメージを損ないそうだが、あらましのみ記すとこうなる。外人部隊の名うての色事師トム・ブラウンは、モロッコで酒場の歌手アミー・ジョリーと恋に落ちる。彼には副官夫人の情人があったが、彼女は嫉妬し、トムの命を狙わせて失敗。この騒ぎでトムは営倉入りとなるが、夫人の名誉のため真実は洩らさなかった。感謝した副官の好意で軍法会議は免れたものの、サハラの前線に送られるトム。アミーは孤独に、船で一緒だったフランスの富豪ベシス氏の求婚を一旦は承諾するが、宴席にトム重傷の報が届くと矢も盾もたまらず、彼のもとへ駆けつける。と、重傷というのは彼女会いたさについた嘘で、トムは元気だった。束の間の逢瀬に更に恋情を燃やす二人。そして、再度トムが前線に出発となって見送るアミーは蔑みも恐れず、情熱的な現地女に混じって、行進する隊を追いかけるのである。その有名な、ハイヒールを脱ぎ捨てて砂漠を駆ける（足裏を火傷するーーなんて野暮は言わないこと！）ラスト・シーンもよいが、アミーが初めてクラブに登場し唄うくだりが圧巻だ。初めはシルクハットの男装の麗人。タバコの煙をくゆらす様がなんとも妖しく、続いてリンゴ売りのコケティッシュな衣装では、ご自慢の脚線を大胆にさらし、悩殺する。不良っぽくキザなクーパーのみせる男の純情もたまらない。これはまさに映画ならではの表現とスターの魅力でのみ成立している稀有な作品なのである。

【クレジット】

監督	ジョセフ・フォン・スタンバーグ	Josef von Sternberg
原作	ベノ・ヴィグニー	
脚本	ジュールス・ファースマン	Jules Furthman
撮影	リー・ガームス	Lee Garmes
出演	ゲイリー・クーパー	Gary Cooper
	アドルフ・マンジュー	Adolphe Menjou
	マレーネ・ディートリッヒ	Marlene Dietrich
	ウルリッヒ・ハウプト	Ullrich Haupt
	ジュリエット・コンプトン	Juliette Compton
	フランシス・マクドナルド	Francis McDonald
	アルバート・コンティ	Albert Conti

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.